

現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が流行しています。このウイルスに対するワクチン接種が日本でも2月から開始され、今後、市民の皆さんにも順次、接種する機会が訪れます。

●ワクチンとは

病原体やその毒素の力を弱めたり、なくしたりする人工的に作られた製剤です。接種することで、あらかじめ、病原体に対する免疫力（抵抗力）を高めておいて、病原体に対する「免疫の出勤待機状態」を作り出すことを予防接種といえます。

●効果

ファイザー社のワクチンは、発症（咳や発熱などの症状が出ること）の予防効果は95%といわれ、最近では重症化するリスクを抑えられることが報告されています。また、多くの人が抵抗力を持つことで、集団で抵抗性が成立し（集団免疫）、感染の広がりを抑えこむ

シリーズ 第159話

新型コロナウイルス感染症
〜ワクチン接種にあたって〜



ことが期待されますが、この抵抗力がいつまで維持されるのかは、今後の課題です。

●危険はないの？

ワクチンの副作用は「副反応」といいます。ワクチンの作用は、からだの免疫を呼び起こすことで、接種に伴う反応（注射した場所の痛み、発赤、発熱など）は、免疫を起こすさまざまな炎症物質がたくさん作られるため、これらの反応は免疫反応の結果なので、「副反応」と呼びます。

副反応には、痛み（約80%）や発熱（約35%）などが比較的良好みられますが、多くは1〜2日間です。

一方、もっと重い反応が見られることもあり、アナフィラキシーという全身に起こるアレルギー反応です。接種後、急激（多くは30分以内）に、皮膚にかゆみ、息苦しさや吐き気などが出て、ひどい場合には血圧が下がり、ショック

状態になります。アナフィラキシーを起こすのは、特殊なアレルギー体質を持った方に多いですが、発症は20万人に1人（米国データ）とまれです。接種場所では、早急に治療できるように体制を準備しています。

●どのような人がワクチンを受けられないの？

一般に、明らかに発熱している方（※1）や重い急性疾患にかかっている方、ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症（※2）の既往歴のある方などは、ワクチンを受けても良いか、事前にかかりつけ医などに相談しましょう。

（※1）明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

（※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻



市民病院 院長 横井佳博 執筆

▽市民病院（代表） TEL 22・2171

ID 751376216

（ほのか診察室）

脈、血圧低下など、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状

●おわりに

ワクチンは多くの人には抵抗力をつけ、健康被害はありません。しかし、非常に少ないながらも一定の危険性があります。病気にかかっていない人が接種するため、副反応は心配される問題です。

しかし、現時点では、新型コロナウイルスに対する有効な対策がない中、今回のワクチンは優れた効果を発揮しています。ワクチンを接種するか、しないかは、国や自治体などから発出される情報を収集し、自分で決めることが大切です。

新型コロナウイルス感染症の終息に向かって、有効で安全なワクチンが、今後正しく理解され、広く普及することを願っています。

